

石田英一郎教授著作目録

(著者選)

昭和42年3月現在

東北大学記念資料室

17

## 石田英一郎教授略歴

明治	36.	6.	30	大阪市に生まる
大正	9.	3		東京府立第四中学校四年修了
大正	13.	3		第一高等学校卒業
昭和	14.	7		ウイーン大学哲学部第五ゼミスター修了
◇	15.	7		帝国学士院東亜諸民族調査室嘱託
◇	19.	1		蒙古善隣協会西北研究所次長
◇	23.	4		法政大学教授
◇	25.	3		日本学術会議会員
◇	26.	5		東京大学東洋文化研究所教授
◇	36.	11		文学博士
〃	38.	12		東北大学文学部教授
〃	42.	3		定年退官

『 』とイタリックは単行本・雑誌・新聞名

「 」と“ ”は論文名

## 著 作 目 録

発表年	著 作 ・ 論 文 題 目	発行所・ 掲載誌名	巻 号	頁 数
1940	「第二回国際人類学・民族学大会傍聴 日記より」	『民族学研究』	6巻2号	133～139
	(書評) Robert Bleichsteiner : “Zum eurasiatischen Tierstil—Verbindungen zwischen West und Ost”	『民族学研究』	6巻3号	113～115
	(書評) Joseph Wiesner : <i>Fahren und Reiten in Alteuropa und im alten Orient</i>	『民族学研究』	6巻4号	128～130
1941	(書評) グレーブナー著(小林秀雄訳) 『民族学研究法』	『民族学研究』	7巻1号	129～134
	「遊牧民族の起源」	『科 学 ペ ン』	6巻5号	88 ～ 97
	(書評) アグネス・キース(野原達夫訳) 『ボルネオ』	『民族学研究』	7巻2号	163 ～165
	(書評) パウル・エミル・ヴィクトル (津田逸夫訳) 『きたかぜ』	『民族学研究』	7巻2号	165～167
	「邦領南樺太オロッコの氏族について」	『民族学年報』	3巻	343～390
1943	(書評) ハイネーゲルデルン(小堀甚二訳) 『東南アジアの民族と文化』	『民族学研究』	新1巻4号	89 ～ 96
	「東干に対する若干の考察」	『回 教 圏』	7巻4号	9 ～ 30
	「クラウゼとその構造論について」	『民族学研究』	新1巻11号	29 ～ 36
1947	(書評) 岡田謙著『民族学』	『民族学研究』	12巻1号	55 ～ 58
	「桑原考」	『民族学研究』	12巻1, 2号	13 ～ 26 13 ～ 28
	「世界史における発展段階」	『展望』	11月号	2 ～ 12
1948	『河童駒引考』	筑摩書房		325
	「ロシアにおける昔話研究の歴史と課 題」	『民族学研究』	12巻3号	92 ～106
	「民族学の発展のために」	『民族学研究』	12巻4号	81 ～ 86
	「W・シュミットの近業とウィーン大 学の消息」	『民族学研究』	12巻4号	63 ～ 65
	「太陽神話の系譜」	『進路』	3巻5号	25 ～ 30
	「歴史科学としての民俗学と民族学」	『人文』	3号	60 ～ 70
	「天馬の道」	『史学』	23巻2号	46 ～ 71

- |      |  |  |  |
|------|--|--|--|
|      | (書評) 岡田太郎『民族学論攷』<br>『一寸法師』   | 『民族学研究』<br>弘文堂<br>(アテネ文庫)  | 13巻1号 86 ~ 89<br><br>64  |
| 1949 | 「文化史的民族学成立の基本問題」<br>「文化の概念と人間の科学」<br>(書評) 今西錦司『遊牧論そのほか』  | 『民族学研究』<br>『知性』<br>『民族学研究』   | 13巻4号 1 ~ 20<br>2巻7号 45 ~ 50<br>14巻2号 70 ~ 71                  |
| 1950 | “The Kappa Legend: A Comparative<br>Ethnological Study on the Japanese<br>Water-Spirit Kappa and Its Habit of<br>Trying to Lure Horses into the Water”<br><br>『民族学の基本問題』<br>「月と不死」 | <i>Folklore Studies</i> ,<br>Museum of Oriental Ethnology, The<br>Catholic University of Peking, Peking<br><br>北隆館<br>『民族学研究』  | Vol. 9 169<br><br>219<br>15巻1号 1 ~ 10                          |
| 1953 | “Japan”  | <i>International Directory of Anthropological Institutions</i> ,<br>Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research,<br>Inc., New York   | 35 ~ 53  |
| 1954 | 「欧米の人類学界をめぐって」<br>「文化とは何か」<br>「メキシコ人類学会の現状と諸問題」<br>「対馬豆敷村の信仰習俗」  | 『東洋文化』<br>『NHK教養大学』<br>『民族学研究』<br>『対馬の自然と文化』古今書院   | 15-16号 120~134<br>6月号 17 ~ 26<br>18巻3号 54 ~ 65<br>407~423      |
| 1955 | “Über die Mutter-Sohn-Gottheiten”<br><br>「古代メキシコの母子神—トウモロコシ饗礼を中心として」<br>『人類と文明の誕生』<br>「日本民俗学の将来」<br>「牛(文化史)」   | <i>Actes du IV Congrès International des Sciences Anthropologiques et Ethnologiques, Vienne, 1952, II Ethnologique I, Vienne</i><br><br>『新嘗の研究』<br>吉川弘文館<br>三省堂<br>『日本民俗学』<br>『世界大百科事典』<br>平凡社 | 63 ~ 65<br><br>2輯 193~216<br>225<br>2巻4号 37 ~ 48<br>3巻 125~128 |

1956	「馬（文明と馬）」	『世界大百科事典』 平凡社	3巻	192～194
	「メキシコの古代文明」	『美術手帳』	101号	33 ～ 43
	『文化人類学ノート』	河出書房		225
	“The Mother-Son Complex in Japanese Religion and Folklore”	KBS Bulletin, Kokusai Bunka Shinkokai	No.15	9 ～ 11
	『桃太郎の母』	法政大学出版局		324
	「採集経済の段階」	『日本考古学講座 （縄文文化）』 河出書房	3	376～382
	「人間性は上部構造か—古典の生命を めぐって」	『近代文学』	11巻3号 （通巻 104号）	1～3
	「唯物史観と文化人類学— とくに文 化の構造と人間性の問題をめぐって」	『東洋文化研究 所紀要』	第9冊	1 ～ 23
	「原始社会」	『世界歴史事典 （改訂版）』平凡社	3巻	388～399
	“The Moon and Immortality”	Japan Quarterly	Vol.3 No.3	341～344
1957	“The Mother-Son Complex in East Asiatic Religion and Folklore”	Die Wiener Schule der Völ- kerkunde, Wien		411～419
	「人類の概念とヒューマニズム」	『現代ヒューマニ ズム講座』宝文館	2巻	31 ～ 16
	「氏族制度」	『世界大百科事典』 平凡社	13巻	154～159
	（共著）石川栄吉「文化人類学」	『人文科学の名著』 （毎日ライブラリー） 毎日新聞社		298～319
	「世界史と文化人類学」	『東洋文化研究所 紀要』	第12冊	1 ～ 26
	「文化人類学問答」	『民族学研究』	21巻3号	7 ～ 13
	“The Island of Women”	Japan Quarterly,	Vol.4, No.4	454～460
	“Historical Materialism and Cultural Anthropology—With Special Reference to the Structure of Culture and Human Nature”	Japan Science Review: Litera- ture, Philosophy and History,	No.9	68 ～ 71
	（共著）江上波夫，岡 正雄，八幡一郎 『日本民族の起源』	平凡社		332

	「アメリカ大陸の古代文明」	『世界史大系 (文明の発生) 誠文堂新光社	2巻	364～397
	「ペルーの土器」	『世界陶磁全集』 河出書房	15巻	221～226
1959	(共著)寺田和夫, 石川栄吉『人類学概説』	日本評論新社		322
	“A Bond between East and West : An Anthropologist's View on Humanism”	<i>International Symposium on History of Eastern and Western Cultural Contacts</i> , Japanese National Commission of Unesco, Tokyo		245～247
	「日本民族の形成」	『日本のあけぼの— 建国と紀元をめぐ って』 光文社		76 ～ 89
	「女人島の話」	『日本民俗学大系』 平凡社	12巻	239～252
	「総説」	『世界史大系(先史 時代)』 誠文堂新光社	1巻	2 ～ 9
	「未開民族」	『世界史大系(先史時 代)』 誠文堂新光社	1巻	404～427
	(共編)『アメリカ大陸』	『図説世界文化史 大系(アメリカ 大陸)』角川書店	11巻	294
	「日本の人類学概観」	『日本の民族・文化』 時潮社		9 ～ 17 218
	『文化人類学序説』			
	「メソアメリカの古代文明」	『世界考古学大系 (アメリカ・オセ アニア)』 平凡社	15巻	51 ～ 72
	「文化とは何か」	『現代文化人類学 (人間の文化)』 中山書店	2巻	10 ～ 16
1960	(書評) 泉靖一「インカ帝国」	『朝日ジャーナル』	7月19日	77
	「みんぞくがく(民族学)」	『日本社会民俗辞 典』誠文堂新光社	4巻	1404～1405
	「世界史における発展段階そのほか—ソビエト版『世界史』第1巻によせて」	『歴史評論』	2月	10 ～ 16
	「マヤ・メキシコとアンデスの絵画」	『世界名画全集』 平凡社	1巻	73 ～ 79
	「スサノオノミコトの抵抗—日本神話を推理する」	『週刊朝日別冊』	3月1日	85 ～ 89
	「馬と戦車」	『図説世界文化史 大系(東西文化の 交流)』角川書店	26巻	89 ～ 95

	「人間の呼ぶ声—原始芸術の底にあるもの」	『美術手帳(原始芸術)』	10月増刊 117～123 180号
	(書評) Rushton Coulborn: <i>The Origin of Civilized Societies</i>	『声』 丸善	7号 140～142
1961	(共著)泉靖一, 寺田和夫等 『アンデス・東京大学アンデス地帯学 術調査団1958年報告書』	美術出版社	528
	『文化人類学における比較—方法論的 覚え書』	『東京大学教養学 部比較文化研究』	1輯 1 ～ 9
	「人類と文明について」	『国学院大学日本 文化研究所紀要』	8輯 27 ～ 44
	「愛と憎しみの文化—西洋文明論のた めの覚え書」	『自由』	3巻19号 2 ～ 10
	「現地調査と文献調査」	『民族学研究』	25巻3号 58 ～ 60
	「文化の隔離と文化の偏重」	『民族学研究』	25巻3号 60 ～ 62
	「永遠の日本人—日本民族文化の起源 論によせて」	『中央公論』	7月号 331～342
	「日本文化の起源—太平洋学会議の 討論から」	『朝日新聞』	9月3～4日
	“A Culture of Love and Hate”	<i>Japan Quarterly</i>	Vol. 8, 394～402 No. 4
	(共著) 泉靖一, 曾野寿彦, 寺田和夫 『人類学』	東京大学出版会	173
1962	「形成期の農耕文化」	『古代史講座(原 始社会の解体)』 学生社	2巻 285～300
	「人類学上から見た人間の疎外」	『論争』	3月号 6 ～ 14
	“Nature of the Problem of Japanese Cultural Origins”	<i>Japanese Culture: Its Development and Characteris- tics</i> , Chicago	3 ～ 6
1963	“Unfinished but Enduring—Yanagita Kunio's Folklore Studies”	<i>Japan Quarterly</i>	Vol. 10, 35～42 No. 1
	(編著) 『アメリカ』	『世界美術全集』 角川書店	24巻 245
1964	「私の日本発見」	『自由』	6巻1号 2 ～ 13
	(編著) 『メキシコ美術』	『世界美術大系』 講談社	別巻 2 216
	“Japan Rediscovered”	<i>Japan Quarterly</i>	Vol. 11, 276～282 No. 3
	「二つの世界観」	『展望』	12月号 20 ～ 29

	“Mother-Son Deities”	<i>History of Religions</i> , Chicago	Vol.4, No.1	30 ~ 52
1665	(書評)『日本国家の起源』(至文堂)	『朝日ジャーナル』	1月10日	63 ~ 64
	「二つの国際会議」	『文化』 東北大学文学会	28巻4号	124~131
	「第七回国際人類学・民族学会議報告」	『民族学研究』	29巻4号	335~337
	「日本的人間関係の構造」	『展望』	9月号	41 ~ 51
	『東西抄一日本・西洋・人間』	筑摩書房		293
	「日本文化の型」	『朝日新聞』	12月1~ 12日	
1966	「文明の波動と境界について一ある考 え方のためのノート」	『海外事情』 拓殖大学	14巻1号	9 ~ 13
	『新版・河童駒引考』	東京大学出版会		302
	「文化理論・文化の動態」	『日本民族学の 回顧と展望』 日本民族学協会		64 ~ 66
	「大学教育および研究機関における民 族学の発展」	『日本民族学の 回顧と展望』 日本民族学協会		362~369
	『増訂・文化人類学序説』	時潮社		248
	「日本文化の体質」	『東洋学術研究』 東洋哲学研究所	5巻3	89 ~106
	(編著)『日本文化の源流』	『現代のエスプ リ』 至文堂	21号	216
	『新版・桃太郎の母-ある文化史的研究』	講談社		304
	(編著)『シンポジウム・日本国家の起源』	角川書店 (角川新書)		212
1967	『新版・文化人類学ノート』	ベリカン社(復 興名著シリーズ)		246
	「日本文化論の理論的基礎—プロジェ クト“日本民族性の比較文化論的研究” のために」	『東北大学日本 文化研究所研究 報告』	3集	1 ~ 20
	『マヤ文明—世界史に残る謎』	中央公論社 (中公新書)		217